



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	北海道における女性の喫煙に関する研究・道内 5 市における 40 歳代女性の喫煙状況及び喫煙に対する社会的評価について・
Author(s)	田野, 英里香; 大日向, 輝美; 木口, 幸子; 杉山, 厚子; 吉田, 安子; 酒井, 英美; 丸山, 知子; 稲葉, 佳江
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要, 第 6 号: 69-77
Issue Date	2003 年
DOI	10.15114/bshs.6.69
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6489
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n13449192669.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

北海道における女性の喫煙に関する研究 －道内5市における40歳代女性の喫煙状況及び喫煙に対する社会的評価について－

田野英里香¹, 大日向輝美¹, 木口 幸子¹, 杉山 厚子¹, 吉田 安子¹,
酒井 英美², 丸山 知子¹, 稲葉 佳江¹

札幌医科大学保健医療学部看護学科¹

元札幌医科大学保健医療学部看護学科²

要 旨

北海道女性の健康教育のための基礎的資料を得る目的で、道内5市（旭川市、釧路市、室蘭市、帯広市、北見市）に在住する40歳代女性に喫煙状況及び社会的評価に関する調査を実施した。

その結果、現在喫煙者は全体で28.8%であり、5市ともに全国と比較して喫煙率が高かった。喫煙のきっかけとしては友人からの影響が最も多くみられた。また、ストレス解消のために喫煙している者も多く、自己のつらさを紛らわす手段として肯定している傾向が窺えた。社会的には、家族の評価で喫煙を否定的に捉える傾向が高かった。

以上のことから、北海道における40歳代女性の喫煙率は全国的にみても高く、今後喫煙に関する指導を実施していく際には北海道の特徴を把握するとともに、年代を考慮した上で地域・家族・職場に対する働きかけが必要であると考えられた。

<キーワード>北海道女性、喫煙状況、喫煙に対する評価

I 緒 言

我々は、中高年女性に対する健康教育のための基礎的資料を得る目的で、喫煙と飲酒に関する研究を行っている。今回は、北海道内5市（旭川市、釧路市、室蘭市、帯広市、北見市）に在住する40歳代女性を対象に調査した結果を報告する。

札幌と本州2都市に在住の中高年女性の喫煙行動をみた先行研究によると、喫煙率は札幌のみが全国調査より高い値を示しており、喫煙行動には地域社会の文化的背景が関与していることが示唆された¹⁾。北海道女性の喫煙率に関しては、その他の調査においても全国的に高いことが明らかになっている²⁾。また、喫煙率について年代別に比較した調査では^{3), 4)}、男性はどの年齢階級も減少傾向にあるのに対し、女性の喫煙率は特徴的な変化をみせている。その内容としては50歳代以上では減少傾向にあるものの、30歳代以下においては1985年以降漸次増加

の傾向にある。このように、50歳代以上は減少、30歳代以下は増加という状況にあって、40歳代は1985年以降ほぼ横這いの状況にある。

40歳代に視点を当ててみると、発達上の影響では更年期を迎える前段階に位置し、ホルモン環境の変化に加えて、子どもの巣立ちや両親の老化等、家族環境の変化も生じてくる時期である⁵⁾と考えられる。女性の喫煙には女性特有のリスクがある⁶⁾といわれている中で、心身の機能に変化をきたすと思われる40歳代というこの時期の喫煙は、その後の健康状態に大きな影響を及ぼすおそれが高いことが考えられる。以上のことから、今回は40歳代女性の喫煙状況及び社会的評価に視点を当て、報告する。

II 対象と方法

1. 調査対象

調査対象は、旭川市、釧路市、室蘭市、帯広市、北

見市に在住の40歳代の女性である。対象は5市の選挙管理委員会の承諾を得て、選挙管理人名簿から各500名、計2500名を無作為に抽出した。

2. 調査内容及び調査期間

調査方法は無記名自記式質問紙を作成し、郵送法により実施した。調査内容は一般的属性（年齢、婚姻状況、家族構成、学歴、職業）、喫煙状況（喫煙経験、喫煙本数、喫煙のきっかけ、喫煙場所、喫煙理由）、女性の喫煙に対する社会の評価、自己の喫煙に対する評価である。

喫煙状況については、「現在喫煙している者」と「30日間以上喫煙していないが喫煙したことがある者」の両方を合わせて喫煙経験者とし、「これまでに喫煙したことがない者」を喫煙未経験者とした。また、喫煙本数、喫煙のきっかけ、喫煙場所、喫煙理由については、喫煙経験者のみに対して質問を行った。喫煙に対する社会的評価については、女性の喫煙に対する人々の評価を回答者自身がどのようにとらえているかという視点から主観的評価を調査した。具体的には地

域、家族、職場の3集団を想定させ、各質問は5～6項目で構成し、評価尺度は『大いに思う』『思う』『少し思う』『思わない』の4段階とした。職場の評価に関しては就業者のみに質問した。自己の喫煙に関する評価は喫煙経験者のみを対象とし、自分自身の喫煙行動をどのように思っているかを『大いに思う』『思う』『少し思う』『思わない』あるいは、『いつも』『ときどき』『まれに』『全くない』の4段階で回答を求めた。

なお、調査期間は平成12年9月～12月までの3ヶ月間である。

3. 分析方法

データ処理には統計ソフトSPSS Ver.10.0-J for Windowsを使用し、検定はカイ2乗検定、Kruskal-Wallisの順位和検定もしくは一元配置分散分析を行い、有意水準5%未満を統計的有意とした。

Ⅲ 結 果

質問紙郵送者数2500名中、返送された有効回答は733名（回収率29.3%）で、地域別には旭川市180名、釧路市

表1 対象の一般的属性

	人 (%)					
	全 体	旭 川	釧 路	室 蘭	帯 広	北 見
	n=733	n=180	n=139	n=171	n=172	n=71
平均年齢(歳)	44.5±3.0	44.2±2.9	45.0±2.9	44.1±2.7	44.4±3.2	44.2±3.3
婚姻状況						
結婚 ¹⁾	593 (80.9)	148 (82.2)	113 (81.3)	134 (78.4)	137 (79.7)	61 (85.9)
その他	140 (19.1)	32 (17.8)	26 (18.7)	37 (21.6)	35 (20.3)	10 (14.1)
家族構成						
複数者と同居	599 (81.7)	149 (82.8)	114 (82.0)	143 (83.6)	137 (79.7)	56 (78.9)
夫婦のみ	86 (11.7)	15 (8.3)	17 (12.2)	24 (14.0)	21 (12.2)	9 (12.7)
一人暮らし	47 (6.4)	15 (8.3)	8 (5.8)	4 (2.3)	14 (8.1)	6 (8.5)
不明	1 (0.1)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
最終学歴						
中学卒業	59 (8.0)	13 (7.2)	17 (12.2)	18 (10.5)	9 (5.2)	2 (2.8)
高校卒業	363 (49.5)	90 (50.0)	77 (55.4)	76 (44.4)	82 (47.7)	38 (53.5)
短大以上	203 (27.7)	53 (34.4)	26 (18.7)	52 (30.4)	53 (30.8)	19 (26.7)
その他	101 (13.8)	24 (13.3)	18 (12.9)	23 (13.5)	25 (14.5)	11 (15.5)
不明	7 (1.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	2 (1.2)	3 (1.7)	1 (1.4)
現在の就業状況						
就業中 ²⁾	475 (64.8)	113 (62.8)	95 (68.3)	116 (67.8)	101 (58.7)	50 (70.4)
未就業	250 (34.1)	66 (36.7)	43 (30.9)	53 (31.0)	68 (39.6)	20 (28.2)
不明	8 (1.1)	1 (0.6)	1 (0.7)	2 (1.2)	3 (1.7)	1 (1.4)

1) 現在婚姻関係にある。

2) 常勤、パートタイム、非常勤、自営業を含む。

表2 喫煙状況

	人 (%)					
	全 体	旭 川	釧 路	室 蘭	帯 広	北 見
	n=733	n=180	n=139	n=171	n=172	n=71
喫煙経験者						
現在喫煙者	211 (28.8)	48 (26.7)	43 (30.9)	46 (26.9)	52 (30.2)	22 (31.0)
禁煙者	115 (15.7)	32 (17.8)	23 (16.5)	27 (15.8)	27 (15.7)	6 (8.5)
喫煙未経験者	401 (54.7)	100 (55.6)	70 (50.4)	98 (57.3)	91 (52.9)	42 (59.2)
不明	6 (0.8)	0 (0.0)	3 (2.2)	0 (0.0)	2 (1.2)	1 (1.4)
喫煙本数(本/日)*	14.3±10.1	14.7±10.7	12.9±9.7	14.4±10.0	15.1±10.8	13.9±8.0

*禁煙者も含む。

139名、室蘭市171名、帯広市172名、北見市71名であった。

1. 対象の一般的属性 (表1)

対象者の平均年齢は、旭川市 44.2 ± 2.9 歳、釧路市 45.0 ± 2.9 歳、室蘭市 44.1 ± 2.7 歳、帯広市 44.4 ± 3.2 歳、北見市 44.2 ± 3.3 歳であった。婚姻状況は5市とも7割以上の者が既婚者であった。家族構成は複数家族との同居が最も多く、5市ともに子との同居が多くみられた。最終学歴は高校卒業者が最も多く、次いで短大・大学以上で、旭川市は短大卒以上の高学歴の者が他4市よりやや多く34.4%であった。就業状況については約6割の者が現在何らかの形で就業していた。

2. 喫煙状況

喫煙習慣において、現在喫煙者及び30日以上喫煙していない者を合わせた喫煙経験者は全体で44.5%、喫煙未経験者は54.7%であった。このうち現在喫煙している者は全体で28.8%であり、地域別では北見が31.0%と最も多く、次いで釧路30.9%、帯広30.2%、室蘭26.9%、旭川26.7%であった。一日平均喫煙本数では、多い順から帯広 15.1 ± 10.8 本、旭川 14.7 ± 10.7 本、室蘭 14.4 ± 10.0 本、北見 13.9 ± 8.0 本、釧路 12.9 ± 9.7 本であり、現在喫煙者の多い北見、釧路の喫煙本数が若干少ない傾向にあった(表2)。

喫煙のきっかけ(表3)では、5市ともに「友人か

表3 喫煙を開始するようになったきっかけ(喫煙経験者のみ、複数回答)

人(%)

	旭川 n=77	釧路 n=65	室蘭 n=73	帯広 n=79	北見 n=27
友人が吸っているから	48 (62.3)	41 (63.1)	37 (50.7)	43 (54.4)	17 (63.0)
ストレス解消のため	26 (33.8)	12 (18.5)	25 (34.2)	29 (36.7)	9 (33.3)
暇つぶしのため	11 (14.3)	12 (18.5)	11 (15.1)	14 (17.7)	5 (18.5)
上司や同僚が吸っているから	8 (10.4)	8 (12.3)	12 (16.4)	6 (7.6)	3 (11.1)
配偶者が吸っているから	9 (11.7)	5 (7.7)	7 (9.6)	9 (11.4)	2 (7.4)
カッコいいから	8 (10.4)	8 (12.3)	4 (5.5)	9 (11.4)	2 (7.4)
親が吸っているから	7 (9.1)	5 (7.7)	6 (8.2)	5 (6.3)	3 (11.1)
仕事の関係から	3 (3.9)	1 (1.5)	6 (8.2)	4 (5.1)	0 (0.0)
妊娠や出産を機に	0 (0.0)	3 (4.6)	7 (9.6)	0 (0.0)	2 (7.4)
子どもが吸っているから	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
マスコミの影響から	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

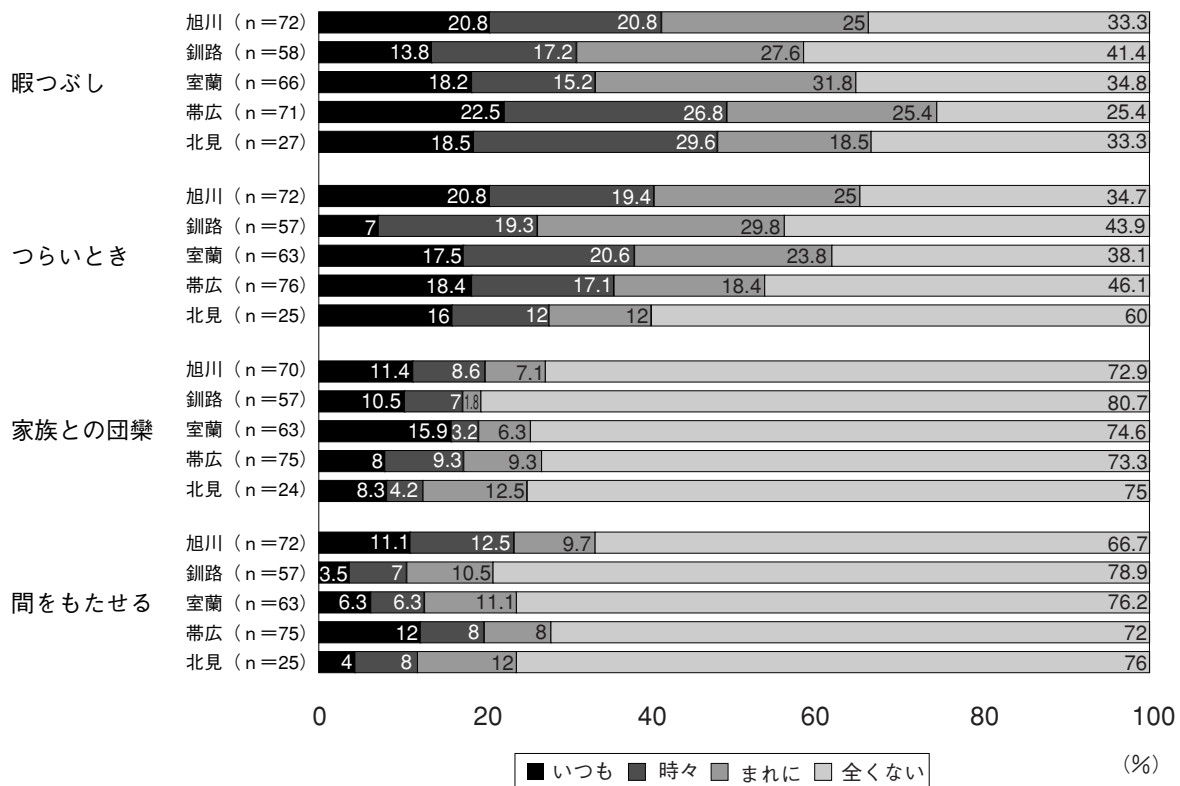


図1 喫煙する理由

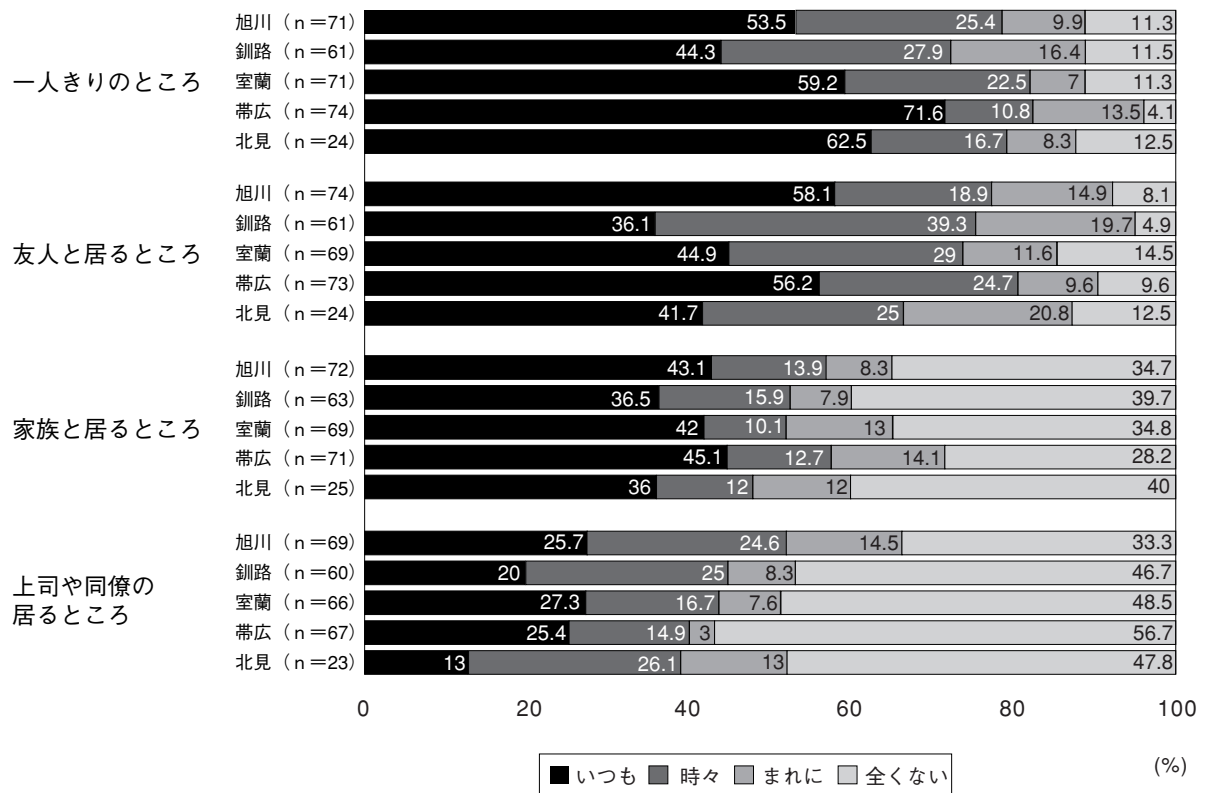


図2 喫煙場所

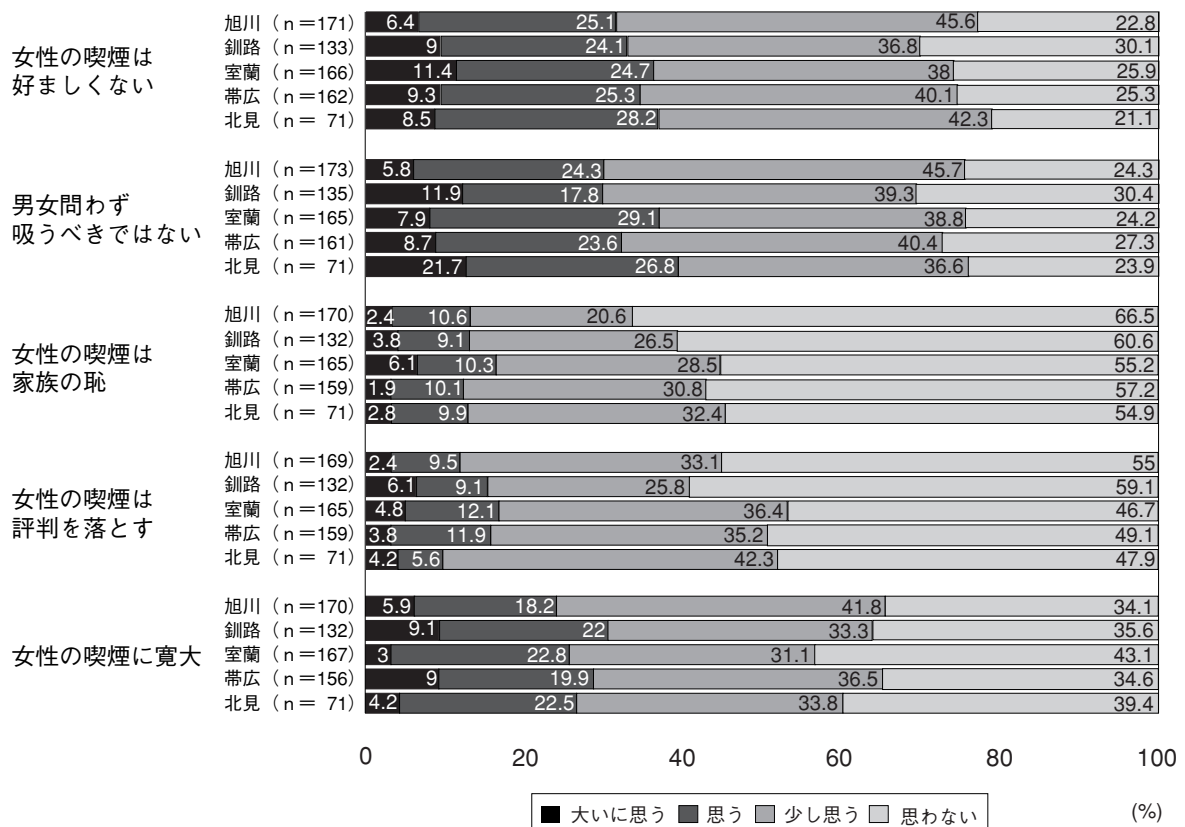


図3 喫煙に対する地域の評価

らの影響」が最も多く、次いで「ストレス解消」「暇つぶし」であった。釧路においては、「友人からの影響」が63.1%と、他4市と比較して最も高く、逆に「ストレス解消」は18.5%と、他4市よりも低い結果であった。

普段喫煙する理由（図1）で『いつも』『時々』と回答した者が多かったのは、「暇つぶし」のための喫煙で、旭川41.6%、釧路31.0%、室蘭33.4%、帯広49.3%、北見48.1%、「つらいことや嫌なことがあったとき」は旭川40.2%、釧路26.3%、室蘭38.1%、帯広35.5%、北見28.0%であった。次いで多くみられたのは「家族との団欒」を理由とした喫煙者であった。

喫煙場所（図2）について、『いつも』『時々』と回答した割合が最も多かったのは「一人きりのところ」で、5市とも70%以上であった。また、喫煙率の高い釧路では、「一人きりのところ」で喫煙する者より、「友人と居るところ」で喫煙する者がやや高かったが、その他の4市は「一人きりのところ」と回答した者が多かった。

3. 女性の喫煙に対する社会の評価

女性の喫煙に対して地域、家族、職場の人々がどのように評価しているかを知るために、『大いに思う』から『思わない』の4段階評価で回答してもらった。以下、各項目に対し『大いに思う』『思う』と回答した者を中心に述べる。

女性の喫煙に対する地域の人々の評価（図3）についてみると、「女性の喫煙は好ましくない」「男女問わず吸うべきではない」は各市ともに30～40%みられ、「家族の恥」「評判を落とす」は10%程度であった。これらの喫煙を否定的に捉える項目において、喫煙率の低い室蘭が他4市に比べ若干多い傾向にあった。「女性の喫煙に寛大」は、各市とも20%以上であり、特に喫煙率の高い釧路で31.1%と最も多い割合であった。

女性の喫煙に対する家族の評価（図4）においては、「喫煙の場を考えるべき」が最も多く、全体で70%程度であった。「女性の喫煙は好ましくない」は各市とも50%以上みられたが、「家族の恥」は20%程度であった。また、「評判を落とす」は室蘭が30.3%と、他4市の20%前後に比べてやや多かった。

女性の喫煙に対する職場の人々の評価（図5）においても、「喫煙の場を考えるべき」がもっとも多く40～50%であり、次いで「男女を問わず吸うべきではない」「女性の喫煙は好ましくない」が30%程度みられた。「女性の喫煙に寛大」では、釧路が44.7%、室蘭は21.0%であり、市による違いが大きくみられた（ $p<0.01$ ）。

喫煙経験者に対して、喫煙に対する自己の考え方に関する質問を行った（図6）。喫煙は「ストレス解消の一つ」と回答した者は、旭川で最も多く74.6%、次いで室蘭が69.8%であった。喫煙率の高い北見、釧路

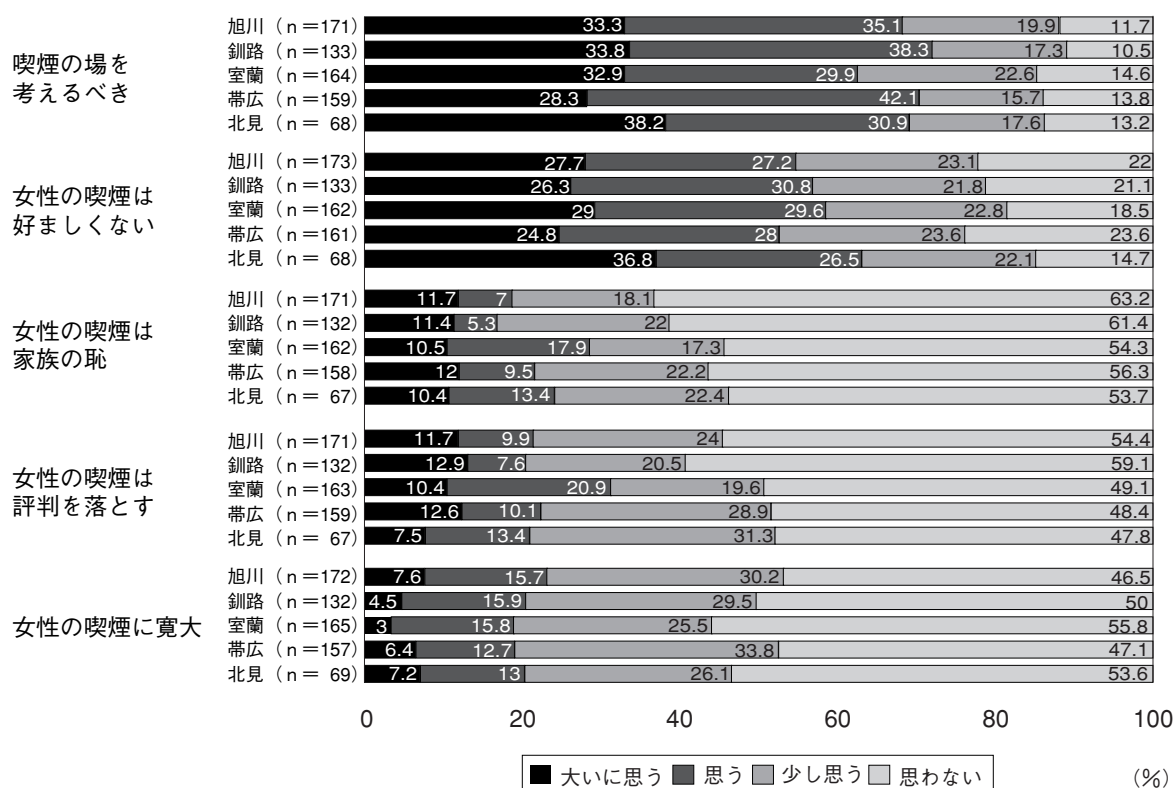


図4 喫煙に対する家族の評価

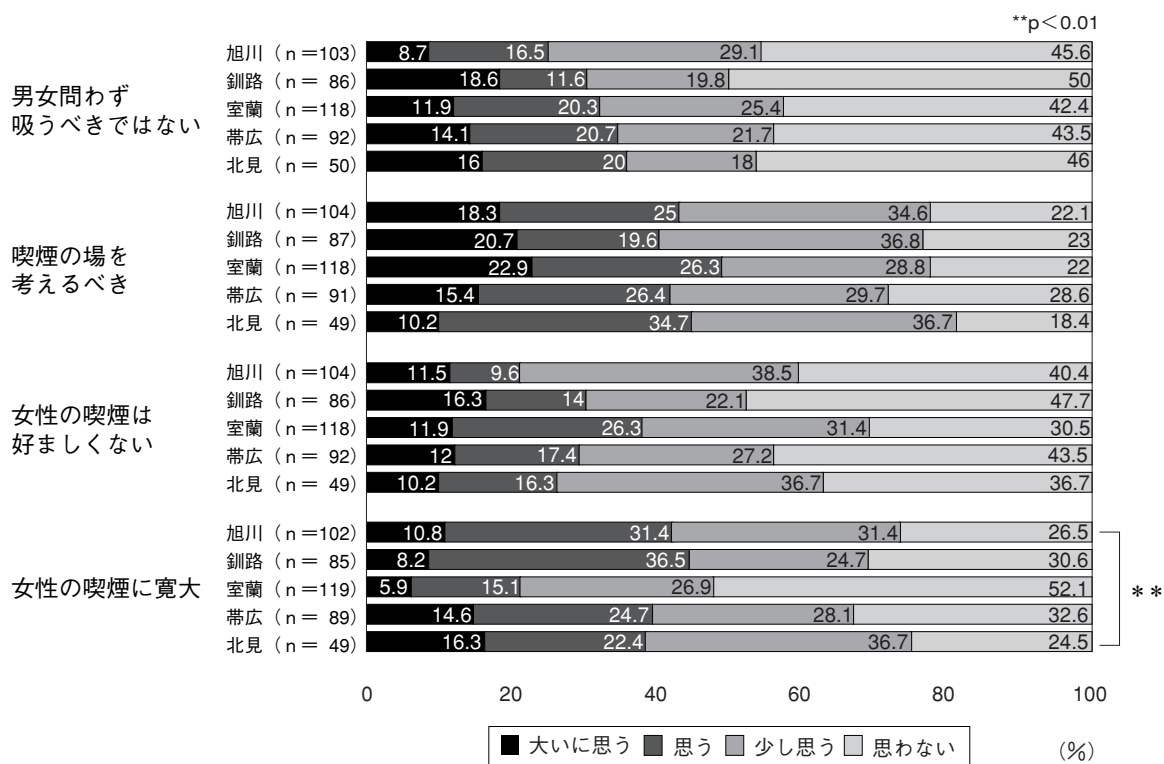


図5 喫煙に対する職場の評価

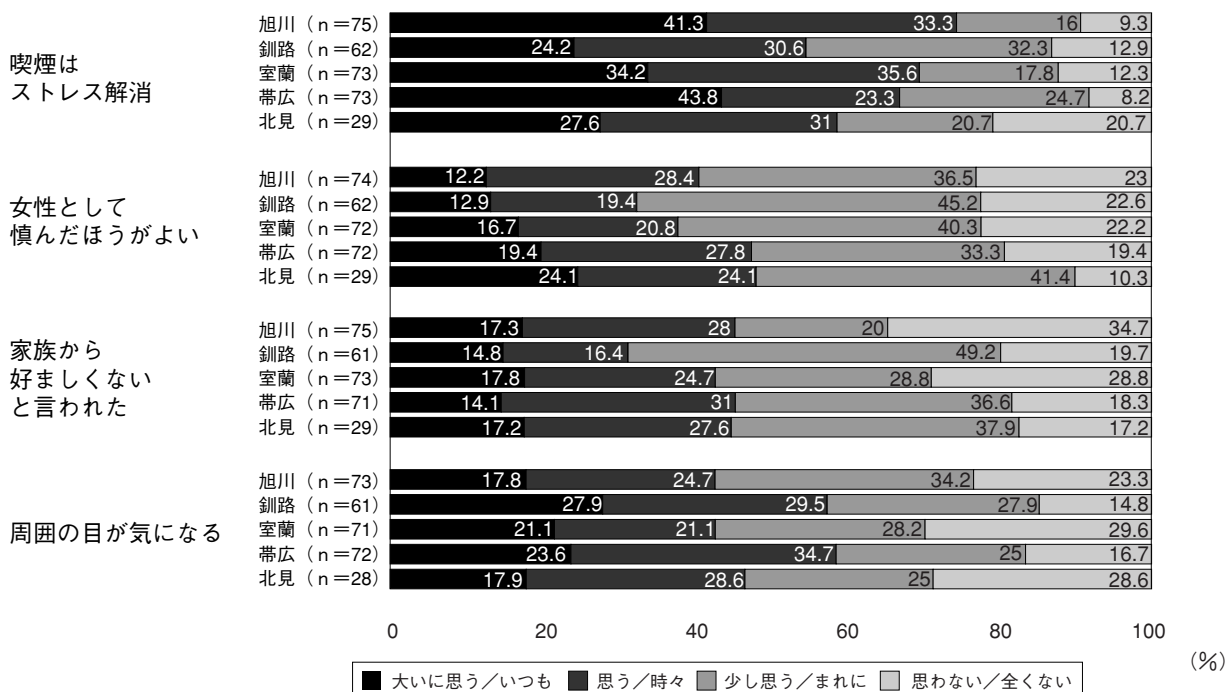


図6 喫煙に対する自己の考え

では、北見58.6%、釧路54.8%とやや低い結果であった。「公共の場では周囲の目が気になる」は旭川・室蘭・北見では40%台、釧路・帯広に関しては60%程度であった。また、「女性として慎んだほうがよい」「家

族から好ましくないと言われた」は、釧路で約30%であり他4市の40%程度に比べて低い割合であった。

Ⅳ 考 察

1. 喫煙状況について

2002年に行われた日本たばこ産業株式会社の調査によると、全国における女性の喫煙率は13.7%であり⁷⁾、年代別では今回の調査対象年代である40歳代は16.8%であった⁷⁾。また、2000年の(旧)厚生省の調査における女性の喫煙習慣者は、40歳代で13.6%となっており⁸⁾、今回の調査での女性の喫煙率は、全国調査と比べて各市ともに2倍近く高い値を示していた。今回の調査対象からは外れているが、札幌と本州2都市の喫煙行動調査においても札幌の喫煙率が他都市に比べて最も高くなっており¹⁾、北海道全体としてみても、女性の喫煙率が高いという結果が得られた。

一日の喫煙本数については、厚生労働省の調査において40～49歳の女性で5割の者が10～19本吸っており⁸⁾、今回の調査結果より得られた一日平均喫煙本数である12～15本は、この範囲に位置することとなる。

喫煙を開始するようになったきっかけとしては、5市ともに「友人が吸っているから」という回答が最も多かった。これまでも喫煙行動として友人からの影響が強いと言われていたが^{9),10)}、今回の調査において裏付けられる結果となった。また、友人からの影響に加え、「ストレス解消」のために自発的に喫煙を始めた者も多くみられた。今回の調査では現在喫煙者の約7割が就業していることから、職場でのストレスという要因が女性の喫煙に影響を与えていると考えられる。職場でのストレスと喫煙の関係については、上司や同僚からの支援が低い群と仕事における報酬が低い群において喫煙率が有意に高いとされているため¹¹⁾、就業の有無だけでなく、その具体的な就業状況についても調査・検討する必要があるのではないかと考えられる。

普段の喫煙理由としては、「つらいとき」と回答した者が5市ともに多く、喫煙の継続にもストレスが何らかの影響を及ぼしている可能性がある。

喫煙場所では、釧路以外の4市が「一人きりのところ」で喫煙すると回答した者が多い傾向にあったのに対し、釧路では、「一人きりのところ」よりも「友人と居るところ」で喫煙する者が多い結果であった。また、釧路に関しては喫煙のきっかけをみても、他市と比べて「友人からの影響」を強く受けており、周囲からの影響が喫煙行動と関連していると考えられた。

2. 社会の評価について

女性の喫煙に対する社会的評価への受けとめは、地域・家族において、女性の喫煙は好ましくないと回答した者が多くみられた。特に家族の評価に関しては、他の項目においても喫煙を否定的に捉える傾向が高く、家族という身近な存在がそのような意識を高めて

いると推測される。

社会の評価においては、5市とも類似の傾向を示したが、喫煙率の低い室蘭では地域・家族・職場のいずれの評価においても他市と比べて喫煙をより否定的に捉える傾向がみられた。このように、喫煙に対する社会的評価を自分自身がどのように受けとめているかということが、喫煙行動と関連していると考えられることができる。

3. 喫煙に対する自己の考えについて

女性の喫煙に対する自己の考えでは、各市とも「ストレス解消」のためと回答した者が多かった。これは喫煙のきっかけや喫煙理由とも関連しており、喫煙を自己のつらさを紛らす手段として肯定している傾向にあると考えられる。その一方で、公共の場においては周囲の目を気にしたり、女性として喫煙は慎んだほうがよいとも捉えており、相反する心理も窺える。以上のように、複雑な心理がありながらも、北海道女性の喫煙率が高い背景としては、次のことが考えられる。ひとつには、北海道女性の特徴として歴史的な開拓文化から男女平等意識の強さ、因習や家意識に束縛されない開放性があげられる^{12),13)} こと、また男性の喫煙率に関しても北海道は全国と比べて高い⁴⁾ ということによる影響があるのではないかと考えられる。

今回、道内5市の40歳代女性の喫煙状況及び社会的評価に関して調査したところ、全国と比較して5市ともに喫煙率が高いという結果が得られた。喫煙状況について詳細に検討すると、各市の特徴はみられるものの北海道内の喫煙率は平均的に高く、自己の喫煙を肯定的に考える傾向にあると言える。このことは以前札幌の女性を対象に行った同様の調査¹⁾ と類似の傾向を示している。

女性の喫煙者は、男性以上に喫煙による健康障害が引き起こされる可能性が高いと言われている¹⁴⁾。例えば、虚血性心疾患に罹患するリスクは喫煙男性の約2倍高く、更に更年期においては骨粗鬆症の危険といった女性特有の問題とも密接に関係していること等である。よって、女性の健康を促進していくためには、喫煙に関する健康教育がより重要と考えられる。なお、今回の調査結果より、健康教育を行っていく際には年代を考慮すること、更に喫煙女性に対してのみならず地域・家族・職場等の周辺環境に対してもアプローチを行うなど、北海道女性の特徴を考慮した働きかけが必要であることが示唆された。また、その内容としては、喫煙行動につながる誘因や喫煙によって生じるリスクを伝えていくなど禁煙を推進する取り組みが重要であると考えられる。

なお今回の調査結果は20%台の低回収率による選択バイアスが生じている可能性がある。よって今後の課題としては、対象者を増やしていくとともに対象地域を広げ、

より検討を深めていく必要があると考える。

(本研究は平成12年度北海道新聞社学術文化研究奨励金の助成を受けて行ったものの一部である)

文 献

- 1) 木口幸子, 大日向輝美, 稲葉佳江ほか: 3都市における中高年女性の飲酒と喫煙に関する研究, 第2報 地域別にみた喫煙行動の社会文化的側面からの検討. 母性衛生43: 156-163, 2002
- 2) 松村康弘, 中村好一, 林正幸ほか: 喫煙率の都道府県較差: 国民栄養調査より. 厚生指標46: 23-28, 1999
- 3) 西村ちひろ, 中山富雄, 中山典子ほか: 性・年齢別, 出生年代別にみた喫煙の動向-肺がん検診受診者での観察-. 日本公衛誌43: 1063-1067, 1996
- 4) 厚生省編: 喫煙と健康-健康と健康問題に関する報告書-, 第2版. 保健同人社, 1997
- 5) 宮川香織: Women's Mental Health: 治療82: 101-106, 2000
- 6) 斉藤麗子: 女性の健康を脅かす薬物乱用②たばこ. 母子保健情報37: 39-44, 1998
- 7) 厚生労働省: 最新たばこ情報, 成人喫煙率(JT全国喫煙者率調査). (<http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd090000.html>)
- 8) 厚生労働省: 国民栄養の現状, 平成12年厚生労働省国民栄養調査結果, 2000, p106-109
- 9) 大井田隆, 尾崎米厚, 岡田加奈子ほか: 看護専門学校と看護大学の学生における喫煙行動の比較. 日衛誌54: 539-543, 1999
- 10) 大井田隆, 石井敏弘, 尾崎米厚ほか: 看護学生の喫煙行動および関連要因に関するコホート研究. 日本公衛誌47: 562-569, 2000
- 11) 河野由理, 三木明子, 川上憲人ほか: 病院勤務看護婦における職業性ストレスと喫煙習慣に関する研究. 日本公衛誌49: 126-131, 2002
- 12) 岩崎正昭: 統計数字が語る北海道の姿, 初版, 札幌. 北門研, 1986
- 13) NHK放送文化研究所編: 第3章 都道府県ごとの特徴, データブック全国県民意識調査, 初版, 東京. NHK出版, 1998, p76-167
- 14) 宗田聡, 藤木豊: 女性の喫煙問題. 治療82: 96-100, 2000

A study about smoking of women in Hokkaido
– The smoking situation and social evaluation for smoking of women
in their 40s in 5 cities –

Erika TANO¹, Terumi OHINATA¹, Sachiko KIGUCHI¹, Atsuko SUGIYAMA¹,
Yasuko YOSHIDA¹, Hidemi SAKAI², Tomoko MARUYAMA¹, Yoshie INABA¹

¹ Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

² Formerly of the Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

Abstract

To obtain basic information for the health education of women in Hokkaido, we conducted a study about smoking and social evaluation of smoking of women in their 40s in five cities of Hokkaido. (Asahikawa, Kushiro, Muroran, Obihiro and Kitami).

The results indicated that 28.8% of all investigated women smoked and in each city smoking rates were higher than the all-Japan rates. The main reason cited for initiating smoking was the influence of friends. The majority of women in each city reported “smoking to relieve stress” and to “reduce distress”. They thought that the families of women smokers displayed negative feelings about their smoking behavior.

The smoking rate of women in their 40s in Hokkaido is higher than the average rate for Japan. Thus, we need to understand the characteristics of women smokers in Hokkaido and make approaches to the community, family and workplace considering age in the case of smoking guidance.

Key words: Women in Hokkaido, Smoking situation, Evaluation of smoking